

## 【黄芩】

黄芩（おうごん）は、シソ科のコガネバナの根茎で、清熱剤として、腰痛や下痢、黄疸などに効果があるといわれています。臨床的には、消炎、解熱が目標となります。さらに、発熱を伴った場合にも有効で、肋骨弓下のつかえ感、みぞおちの抵抗を訴える患者さんに効果があります。

主要成分は、フラボン配糖体のバイカリンであり、先の解熱作用の他、胆汁排出促進作用や利尿作用、弱い下剤（緩下剤）として作用することが薬理的に証明されています。

黄芩の有効性を決定づけたのは、岐阜薬科大学の江口氏による抗アレルギー作用の実験です。その結果、黄芩は抗体産生に対する影響は少なく、抗原抗体の結合を抑制するものでもなく、ケミカルメディエーター（化学伝達物質）の遊離を抑制することがわかりました。つまり、I I型やI I I型への作用は弱いのですが、I型アレルギーに対する効果が期待されるわけです。